

感染対策委員会の活動

最近、ニュースで注目される話題の中に、新型インフルエンザの世界的流行、お笑い芸人や助産師の結核発症、ノロウイルスなどによる集団下痢等があります。映画でも感染症の爆発的流行（アウトブレイク）をテーマにしたものも公開されました。

病院というのは、さまざまな病気を抱えた人が集まってくる場所です。患者さんによっては肺炎、インフルエンザ、結核、感染性の下痢症など、人にうつる病気をかかえて来られますし、一方では病気に対する抵抗力が弱まっている方も来られます。ともすれば、病院を介して、感染性の病気が大流行する危険性が常にあるわけです。当院では5年前より感染対策委員会を院内に設置し、患者さんや病院スタッフ



感染対策委員長
中村 宣雄

フへの感染拡大を未然に防ぐためのさまざまな活動を行っています。メンバーは医師、看護師のみならず、病院内のあらゆる職種からの代表者で構成されています。今回はその活動内容をご紹介します。

1 感染に対する教育、啓蒙活動

どんな感染症も怖がってばかりでは治療もできません。無知では感染を広げてしまいます。正しい知識と手技を得るため、私たちは定期的に感染に関する最新情報を盛り込んだ勉強会を行い、またそれが実践できているかの確認を行っています。さらに、感染対策マニュアルを作成し、必要な情報をいつでもパソコンから得られるようにしています。



2 院内における各種感染症動向の把握(サーベイランス)

院内細菌検査室からの情報を元に、週ごとに院内での感染症の動向を把握し、どのような抗生物質が有効か、特定の感染症が異常発生していないかなどをスタッフに情報伝達しています。また、血管内留置カテーテルなど感染率の比較的高い処置については全例について感染兆候の調査を行っています。



3 感染症患者の定期回診、院内各部署の環境チェック

重症の感染症患者さんを対象に定期的に回診を行い、病状の把握や治療のアドバイスなどを行います。また、院内のあらゆる部署を巡回し、適正な清潔環境が保たれ、正しい感染予防対策がなされているかどうかをチェックしています。



4 抗生物質濫用防止のためのシステム作り

抗生物質は感染症を治療するための薬ですが、使いすぎや間違った使用は副作用のみならず耐性菌（その薬が効かない菌）の出現をも助長します。このため、特に重要な抗生物質については感染対策委員会に届け出から使用するシステムとし、濫用の防止に努めています。



5 感染拡大を防ぐための対策立案、実行

もしも病院内で特定の感染症の伝播などが懸念される事態になった場合、緊急に感染対策委員会が招集され、感染の拡大を最小限に抑えるための対策が話し合われ、これを実行します。また、普段から職員の日常業務での医療感染事故（注射針による手指の針刺し事故など）を防ぐための機器導入提言なども行っています。



6 感染対策に関する研究、学会発表や他施設との情報交換

院内で行ったさまざまな感染対策の取り組みを客観的に評価し、有効であったものは積極的に取り入れるとともに、得た成果を学会で発表し、院外の人たちからの評価を仰ぎ、さらに他施設で行われている取り組みを情報収集しています。ここ3年間で日本環境感染学会には計6題の研究発表を行いました。



感染対策委員会のメンバーで～す!!

整形外科 岩名 大樹 先生

国際学会で最優秀賞を受賞!



(発表中の岩名先生)

去る4月3～4日に大阪で開かれた第6回Asian CAOS meeting（アジアコンピュータ支援整形外科手術学会）で、当院整形外科の岩名大樹先生が最優秀ポスター賞を受賞しました。当院で行っている人工股関節手術、特にナビゲーションと呼ばれるコンピュータを用いた手術の正確性についての発表が高く評価されました。

感染対策活動は、感染症という炎を大火事になる前に未然に防ぐ消防活動のようなものです。日頃から防災意識を高め、環境を整備し、火の手の上がりやすいところには常に目を光らせ、万一火事が起こっても迅速な対応でできるだけ小火で消し止める、ということをお心掛けて日々活動しています。患者さんやご家族、面会の方々にもさまざまなご協力をお願いする場面があるかもしれませんが、ご理解のほどよろしくお願いします。



協和会病院ご案内

医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号
(代)06-6339-3455

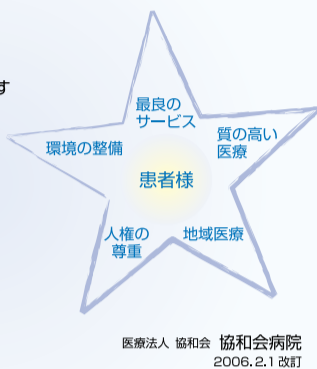
- 理事長/木曾 賢造
- 院長/増田 公人
- 開院年月日/1988年(S63)3月
- 診療科目/内科、消化器科、整形外科、
脳神経外科、放射線科、リウマチ科、
リハビリテーション科
- 専門外来/泌尿器科(月曜日13:00~14:45)
- 診察時間/午前診 9:00~12:00(月~土曜日)
- ※救急医療については、24時間お受けしております。

病院理念

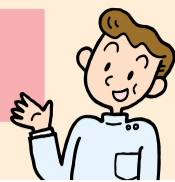
専門的な知識と技術の向上を図り
心をこめて安心の医療を提供します

基本方針

1. 「患者様中心」を常に心がけ満足される医療を提供します
1. 急性期から回復期まで、地域に求められる医療を提供します
1. 医療技術の向上につとめ専門性の高い医療を提供します
1. 人員・設備・環境を整え安心で安全な医療を提供します
1. 患者様・職員共に人権を尊重し公正な医療を提供します



看護フェア開催!!



今年は1階の正面玄関前で開催しました。これまでとは違い、ごく限られたスペースでの開催となり「狭くないかな・・・」「救急が来たら邪魔かな・・・」など不安でしたが、いざ準備が整うと「これ何?」「もうしてるの?何時から?」とお声を掛けて下さる方がいらっしやり、予定時刻より少し早く開催しました。

あっという間に2時間が経過し、約70名の方の御参加で大盛況の中(?)閉会致しました。来年も更にたくさんの地域の方に御参加頂けるようなフェアにしたいと思います。(看護部 大森雅子主任)



手洗い

感染予防の基本は手洗い、うがい、マスクの着用です。
ここでは、衛生的な手洗いについて確認したいと思います。

和の場



- ① まず流水で洗浄し、石鹸を泡立てる
- ② 手のひらをよくこする
- ③ 手の甲をよくこする
- ④ 指先、爪の内側を洗う
- ⑤ 指の間を洗う
- ⑥ 親指と手のひらをねじり洗い



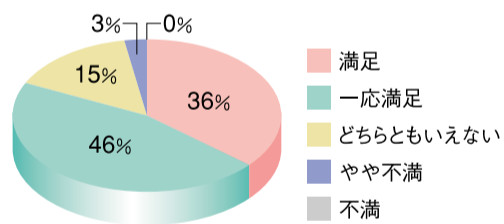
- ⑦ 手首を洗う
 - ⑧ 流水で約30秒かけてしっかり石鹸を洗い落とす(「もしもし亀よ〜♪」の1番をゆっくり歌うと約30秒です)。
 - ⑨ ペーパータオルまたは衛生的なタオルで完全に乾燥させる。
- 当院でも上記の手洗い方法をスタッフに周知徹底を行い、感染予防に努めています。
(理学療法科 高尾耕平)

外来患者満足度調査の結果

平成21年4月27日から5月2日まで外来患者様を対象にご協力頂いた『満足度調査』の結果です。
代表的な質問内容アンケート結果を大まかに円グラフ化して報告させていただきます。

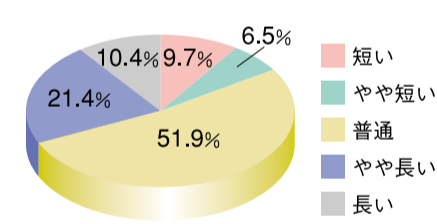
病院に対する満足度 80%

●病院全体 (まずまず満足している)



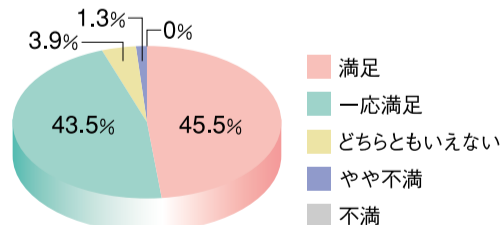
待ち時間について 30%

●待ち時間(全体) (長いと感じておられる)

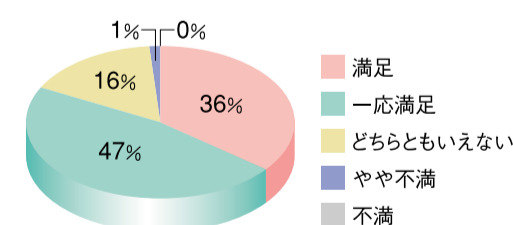


病院環境について 85% (掲示物・清掃など整理整頓が良い)

●病院内の清掃(きれいさ)



●掲示板など院内の案内



アンケートにご協力を頂き、貴重なご意見ありがとうございました。

当院でも患者さまから出される苦情でいつもトップを占めるのが『待ち時間が長い』ことです。特に外来の患者さまは、ひとつひとつのセクションを通過するたびに長い間待たされることも混雑の具合によっては想定されます。それが不満やストレスの原因になることも少なくありません。患者さまに満足して頂くためには、患者さまの心理を理解し、可能な限り負担を取り除くような配慮が大切です。(たとえば、待ち時間の予告がそれにあたると思います。)予告があれば、患者さまはその間に済ませたい用事をすませて待つことが出来ます。また、待ち時間に変化が生じた場合、その都度経過を知らせれば、より行き届いたサービスに繋がります。患者さまが満足して頂ける病院を目指して意見のひろい上げを今後も行って参りたいと考えております。(サービス委員会)

職場紹介 薬剤科



皆さんこんにちは。

薬剤科には現在15名の薬剤師が勤務しております。私たちの主な業務は、入院患者様の調剤(内服・注射)、抗癌剤の無菌調製、患者様への服薬指導(薬剤管理指導業務)、スタッフへの医薬品情報提供(DI業務)、医薬品の在庫管理、各種委員会への参加などです。

これに加え、今年度より高カロリー輸液の無菌調製を開始しました。高カロリー輸液とは食事摂取が不可能または不十分な場合や、治療の為食事の摂取が好ましくない場合に、必要な栄養を全て中心静脈から摂取する際に用いる点滴です。抗癌剤のみならず、高カロリー輸液も無菌調製を行うことで、より衛生管理に責任を持ち、安全性の高い医療を患者様に提供することができます。

今後も、質の高い医療の提供ができるよう、患者様に寄り添った業務を行っていきたくと思っています。お薬についての疑問点などがございましたら、気軽にお声をお掛け下さい。(薬剤科 松井美恵子)

フレッシュパワーでがんばりま〜す!!

平成21年度、看護部門・パラメディカル部門の新入職者23名です。
明るい笑顔と元気なあいさつ、初心を忘れず頑張ります。



編集後記

当院をもっと知って頂きたいとスタートした本誌も、お陰様で6年目を迎える事が出来ました。本誌を通じて届く皆様方からの声も加味してさらに良い情報をお届けして行きたいと考えております。 広報誌委員長 北村博司